

連載⁸⁴
内海善雄の
(ITU元事務総局長)
やぶ睨み
「ネット社会」論

政治化を排して混乱を避ける 「国際電波割り当て」の教訓

昨年暮れ、ジュネーブのITU（国際電気通信連合）で、世界の電波割り当ての条約である「無線通信規則」制定の百周年式典が、関係者だけで密やかに行われた。

電波で成り立っている現代文明

現代文明は、テレビやスマホなどの情報伝達手段、新幹線や航空機などの輸送手段、そして電力の三要素によって形成されていると思うが、このどれをとっても、電波による通信がなければ機能しない。従って「無線通信規則」は、現代世界を律する基本ルールの一つだと言える。その百周年記念であれば、世界各国でそれなりのイベントがあっても良さそうなのである。なぜ、何もないのだろうか。ちなみに3G携帯電話のための電波オークションでは、各国とも数兆円単位の金が

政府に支払われたが、それは、その数年前に「無線通信規則」の改正で捻り出した電波である。「無線通信規則」は、マルコニーが大西洋横断無線通信に成功してからたった五年後の一九〇六年、ベルリンの無線通信会議で成立した。日露戦争翌年、そして六年後には第一次世界大戦が起きた帝国主義の真つ只中、列強が覇権争いに血道をあげている時に、満場一致で合意したものである。それには、訳がある。世界中に統一ルールがなければ、互いに混信して電波が利用できないからである。

電波の国際割り当て

この電波利用の基本ルールは、幾多の変遷を経たのち、現在では、三、四年ごとにITUで割り当て会議（「世界電波会議」）が開催され、無線通信規則の改正という形で新しい利用目的のために電波が割り当てられている。その国際合意に基づいて各国はユーザーに電波を免許する。

「世界電波会議」の議題、すなわちどの分野に電波を割り当てるかということは、ITU理事会で決定される。その決定を受けて、他の周波数への移行を強いられ、多大の損害を被る。

米モトローラ社は、周回衛星電話である「イリジウム計画」の電波獲得のため、数年間にわたって水面下で各国へ働きかけを行った。本番の世界電波会議では、米代表団はおろか、主要国の代表団にもモトローラ社の職員を団員として潜り込ませ、また、前代未聞の大レセプション等で各国代表を饗応して電波を勝ち取った。

一方ガリレオ計画は、会議場そばにECの対策本部を設け、各国代表に各個撃破で支持を懇願した。当時、日本国代表団長だった筆者も対策本部に呼び込まれ、実施会社の仏美人女性社長に「もし、電波が獲得できなければ……」と目の前で泣かれて往生した。（黄色人種の小男に卑屈に哀願しなければならぬ身を嘆いたのか、それとも、涙を見せるのが説得の一番の方法と心得てのことか？）このように国際調整は、政治化するケースもあるし、米国のように百人を超す利害関係者を代表団員として送り込む国もある。

政治化を排した実務主義の調整

しかし、多くの交渉は電波の専門家（規制庁）により淡々と行われる。専門家同士が混信排除という技術的側面だけに注目して、提案された電波利用を何と

域ごとに（例えばアジア地域）、共同提案の作成作業が行われ、地域内の意見調整が行われる。世界電波会議は、通常三週間で、期間は延長されない。会議期間中に全体合意が成立しなければ、新しい利用目的のために電波は利用できず、企画していた事業は頓挫する。そこで、各国とも合意を得るべく必死で妥協案を模索する。

しかし、幸いにして会議が失敗に終わったという例はあまりない。世間を騒がすWTOやTPPの自由貿易交渉と比較して、世間の注目はほとんど引かない。従ってごく簡単な交渉のように見えるが、実は、何千人もの代表が何千項目もの事項を、夜を徹して調整し合う極めて複雑な国際調整である。さらに、その結果には何兆円ものビジネスチャンスが絡んでいるのである。

自由貿易交渉では、自由化によって打撃を受ける産業、例えば農業があり、問題が極めて政治化する。しかし、電波の割り当て交渉ではそのようなことをあまり聞かない。なぜなら、新規目的のための電波の割り当ては、既存の電波利用を絶対的に優先し、邪魔をしない範囲内で可能とする原則、すなわちfirst come, first servedを堅持することにより、安定的な電波利用を確保しているからである。故に、多くの場合、今まで使用することが不可能だった周波数が技術開発で使えるようになったものや、あるいは、既利用者に混信を与えないような方向や電力、時間などを採って限定的に割り当てることになる。

激しい電波獲得運動

しかし、どうしても既存の利用者を犠牲にしなければならないこともある。例えば、およそ二十年前に行われた地球上どこにいても使うことができる周回衛星携帯電話や、欧州が米国のGPSに対抗して建設することにした「ガリレオ計画」への電波の割り当てである。いくら対策をしても、宇宙から降ってくる



世界電波会議。「無線通信」の恩恵は計り知れない



内海善雄（うつみ よしお）
1942年香川県高松市生まれ。東大法（現な）学部卒。東芝を経て66年郵政省自由化（総務省）入省。電気通信の担当。98年国際電気通信連合（ITU）事務総局長就任。現在は一般財団法人「海外通信・放送コンサルティング」理事長。IEEE名誉会員。